

E

東野便り
HIGASHINO DAYORI学校法人
盈進学園 東野高等学校
総務部

東野高等学校 校長 平井 廣治

2025 年度の始まりに

謹啓

陽春の候、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

2025 年度は、盈進学園創立 100 周年、東野高等学校開校 40 周年という本校にとって大きな節目になる一年となります。揺るぎない建学の精神や教育理念を継承しつつ、時代の流れをとらえた新たな施策を取り入れながら、今後も更なる学校の発展を目指していきたくと存じます。

さて、新年度が始まるにあたって、始業式では以下のような話をいたしました。

いよいよ記念すべき 2025 年度がスタートしました。何が記念すべきなのか…もう皆さんも知っている通り、東野高校にとって、2025 年は学園創立 100 周年・学校開校 40 周年を迎える年です。新入生 335 名、2 年生 323 名、3 年生 326 名。合計 984 名がこの特別な年に、この東野高校でともに学んでいく…これは間違いなく、特別な「縁」に他なりません。

実は、この 4 月初日から、私は非常に大きな緊張感を抱いています。その緊張感の要因は、「100 年の重み」です。学校が 100 年間続くには、多くの人の思いや力が必要となります。学園創設者の丸山鋭雄先生の思い、それを受け継いだ人の思い、そしてまたそれを受け継いだ人の思い。たくさん思いが繋がったことにより、現在の東野高校が存在し、我々もまたそこに存在している。これが特別ではなくて、何が特別でしょうか？ 伝統ある学校で学んでいるという誇りと自覚を持ち、また創設者の思いがこもった「知識は第一の宝、品行は最高の美、忍耐は無上の力」という「建学の精神」を心にとめて、大きな成長を目指していきましょう。なお、9 月 11 日（木）、ちょうど芸術 WEEK 期間中になりますが、所沢ミュージアムにて周年記念式典を開催します。式典では、法相宗大本山・薬師寺の執事長で、全国各地で幅広く講演活動をされている大谷徹英様や、学園創設者のご家系の方をお招きしてお話をさせていただく予定です。また、NHK 交響楽団による演奏も予定していますので、楽しみにしてください。

さて、ここまでは 100 周年・40 周年に関係する話をしてきましたが、もう一つ別な話もしたいと思います。全校生徒約 1,000 名が一堂に会する機会というのは、一年を通してそう多くはありません。特別な縁あって集まった皆さんが揃っている今日だからこそ話しておきたいこと…それは、「学校とは何をする場所なのか」ということです。私は、「学校は心身ともに成長をするための場所」だと考えます。特に東野高校では、建学の精神でも謳われている、知識・品行・忍耐を身に付けていくことを重視しています。今年度のキャッチフレーズは、昨年度と同じく「ひろげて、つなげて、そして…」です。知識や体験をひろげて、ひろげた知識や体験をつなげて、そして誰しものが大きく成長できるチャンスがある場所、それが東野高校です。

学校法人 東野高等学校
盈進学園〒358-8558 埼玉県入間市二本木 112-1
Phone 04-2934-5292 (代表) Fax 04-2934-4665EISHIN GAKUEN HIGASHINO HIGH SCHOOL
SCHOOL FOUNDATION112-1 Nihongi, Iruma City, Saitama Prefecture 358-8558 JAPAN
Phone +81-4-2934-5292 Fax +81-4-2934-4665

IEI

◆◆ 東野便り ◆◆
HIGASHINO DAYORI学校法人
盈進学園 東野高等学校
総務部

だからこそ、自分の成長の妨げになることを慎むのはもちろん、他者の成長を妨げるようなことは絶対にしてはいけません。特にいじめは、人の尊厳を踏みにじるものであり、決して許される行為ではありません。先ほども言ったように、ここには約1,000人の生徒が集まっています。当然、それぞれに個性があり、考え方も、大切にしているものも違うと思います。そうした中で、皆がそれぞれの成長を目指していくために必要なのは、多様な価値観があることを理解し、互いを認め合う心…わかりやすく言えば、「思いやり」です。

では、具体的にどうしていけば良いのか…そのヒントになる言葉を今日は紹介したいと思います。その言葉とは、「己の欲せざるところは、人に施すことなかれ」というものです。これは、『論語』という書物の中で、弟子から「この一言なら生涯守るべき信条とするに足る言葉は何か？」と問われた孔子という人物が、それに対して答えたものです。「己の欲せざるところは、人に施すことなかれ」…「人からされたくないことは、自分からも人にはほしくないこと」という意味です。なお、当然ではありますが、「自分が気にならなければ、相手に何をやっても良い」ということではありません。この言葉の本質は、「相手の心を考えてから行動すること」、つまりは「思いやり」を持つことが大切であるということです。

東野高校にとって記念すべき一年となる今年度は、様々な新たな取り組みが始まる年でもあります。主体的な授業展開を可能にする新たな一日のスケジュール、主体性を伸ばすことを目的とした新たな土曜日…それらを有効に活用し、また「思いやり」を持ちながら、これまで以上に自らを大きく成長させていってください。

目まぐるしく変化する時代において、最も求められるのはその変化に適応する力です。そして、適応するために必要なものとして「主体性」が挙げられます。「選べる土曜日」を始めとした今年度から本校で実施する新たな取り組みも、それを強く意識したものとなります。なお、4月26日（土）に開催する全学年保護者会の際には、改めて保護者の皆様にご挨拶をさせていただきたいと存じます。ご多忙の中恐れ入りますが、是非ともご来校いただけますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

謹白